



知基第178号
令和元年11月5日

在沖米国総領事
ロバート・ケプキー 殿

沖縄県知事 玉城 デニー



嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練の実施について（抗議）

令和元年10月29日、嘉手納飛行場において、今年4回目となるパラシュート降下訓練が実施されました。

県としては、パラシュート降下訓練は、沖縄県民の基地負担の軽減を図るというSACO最終報告の趣旨に沿って厳格に運用されるべきであると考えており、これまで幾度となく嘉手納飛行場で同訓練を実施しないよう強く要請してきました。

それにもかかわらず、今年の嘉手納飛行場における訓練回数は、現時点ですでに、SACO合意後、最多であった平成29年1年間の降下訓練の回数を上回っております。これは、同飛行場におけるパラシュート降下訓練が、常態化しているものと言わざるを得ず、強い憤りを禁じ得ません。

米軍が、県や地元自治体などの要請・抗議を一顧だにせず、伊江島補助飛行場の気象・海象状況などを理由に嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練を繰り返す姿勢に対し、県民の米軍への不信感が高まっており、今後の嘉手納飛行場の使用、ひいては日米安全保障体制に影響を与えるものと危惧します。

ついでには、今回の嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練の実施に強く抗議するとともに、今後、同飛行場においてパラシュート降下訓練を実施しないことを強く要請します。